

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月18日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520193

研究課題名（和文） 戦後期日本のサークル運動と文学についての基礎的研究

研究課題名（英文） Basic research on circle movement and literature in postwar Japan

研究代表者

鳥羽 耕史（TOBA KOJI）

早稲田大学・文学学術院・准教授

研究者番号：90346586

研究成果の概要（和文）：単著『1950年代 「記録」の時代』を中心として、戦後期のサークル運動、記録の運動が連関しつつ、これまでにあまり顧みられなかったような文学や映画などの作品に結実していったことを明らかにできた。戦後文学、サークル運動、記録の運動のそれぞれについて、当時の関係者の証言をとり、中心的な雑誌の総目次などを整備しつつ、その果たした役割についての検証をすることができた。

研究成果の概要（英文）：This research revealed that circle movement and reportage movement worked together to bear fruits of literature and cinema which have not been well known. The result is represented by the book titled *1950s: The Era of "Kiroku (Reportage/Documentary)"*. We interviewed key persons of postwar literature, circle movement, and reportage movement. We investigated the rolls of typical magazines of the era, making the tables of contents and indexes of them.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：近・現代文学

キーワード：安部公房、花田清輝、杉浦明平、サークル運動、へたくそ詩、記録、ルポルタージュ、ドキュメンタリー

1. 研究開始当初の背景

サークル運動については、思想の科学研学会や天野正子などが当事者的な検証を行ってきた。また、近年、国内外の歴史学や社会学の観点からの注目が集まり、成田龍一、道場親信、山本唯人、近藤真里子、水溜真由美、大串潤児、辻智子、Justin Jesty、Wesley Sasaki-Uemuraらが論じている。文学としても、坪井秀人、佐藤泉、中谷いづみ、茶園

梨加らが論じている他、Jacques Ranciereが19世紀フランス労働者の詩について論じているものが重要な先行研究となるだろう。研究代表者鳥羽耕史は、これまで戦後期の前衛文学と記録文学について研究を進めてきた。中でも『運動体・安部公房』（一葉社、2007年）において、戦後の文学・芸術運動やサークル運動と関わり合いながら安部公房が政治的にも芸術的にも前衛的な文学を作り上

げていった過程に注目し、サークル運動を文学的に捉え直す必要性を見出すに至った。それらのサークルや記録を支えた理念については、日本におけるマルクス主義および花田清輝の問題がある。研究分担者菅本康之は、芸術運動における安部公房の師でもある花田清輝について『フェミニスト花田清輝』(武蔵野書房、1996年)をまとめた後、『モダン・マルクス主義のシンクロシティ』(彩流社、2007年)において、20世紀のマルクス主義におけるベンヤミンと平林初之輔の共時性、およびシュルレアリスムにおける花田清輝との共振について論じてきた。また、有島武郎についての研究発表では、従来ナイヴに受容されてきた有島の「宣言一つ」について、同時代、そして今日のマルクス主義の水準から新たな読みを提示した。こうした国際的な政治的・芸術的前衛の視点で、特に花田の共同制作論に注目しながら、従来の単純な共産党中心史観や素朴民衆史観とは異なる形でサークル運動の思想的側面を明らかにできないかという着想に至った。花田清輝は、吉本隆明との「論争」以降、すなわち50年代後半から、——それは「サークル村」の発表・出版の時期と重なる——西欧ではなく、日本の「過去」の歴史に着目をし、連歌のあり方などを参照しつつ、「歴史」のなかに埋没している可能性を開花させる形で「共同制作」論を発展させていったのである。花田の共同制作論の理論形成期は、ちょうど戦後のサークル運動隆盛期と重なるのである。文学批評家による共同制作の理論化と、「自然発生的」なサークル運動とが交錯した時代の「運動体」について、鳥羽がサークル誌の実証的側面を、菅本が思想的側面を分担する予定である。

2. 研究の目的

戦後期のサークル運動については、資料的な困難が大きい。しばしばガリ版刷などの粗末な印刷で作られたサークル誌は、公的な図書館・文学館に所蔵されているケースが極めて少ない。運動を中心的に担った世代は現在80歳前後になってきており、まずは当事者への聞き取りと資料の収集・保存が急務である。現在予定しているのは北海道の『北の集団』、高知の『鉄と砂』および名古屋の『とけいだい』『岐阜文学』というサークル誌のデジタル的な保存、および杉浦明平グループを含めた形での東海地方のサークル関係者の聞き取り調査だが、これら以外にも可能な範囲での探索・収集を行う。サークル誌については総目次を作り、当事者の了解が得られる範囲で学術誌・出版社もしくはインターネット等で本文の公開を行っていく。聞き取り調査の結果についても、紀要または学術誌で発表していく。こうした基礎的な調査をベースとして、サークル運動における文学が詩やルポル

タージュという形式に拠ったことの意味の考察、これまで「へたくそ詩」と呼ばれて文学的に無意味とされてきたものの新しい読み直し、花田清輝の共同制作論などを参照した上での彼らの共同性についての考察を深めていく。最終的には、この時期の無名の人々が集っていたサークルという場の意義を考察し、彼らが担った運動体としての文学のあり方について、文壇的な文学とは違う、文学の新しい可能性を見出したい。

3. 研究の方法

資料的に未開拓の分野を扱うため、まず資料体として新鮮なものとなる。鳥羽も参加した『現代思想 35巻 17号臨時増刊 戦後民衆精神史』においては、京浜工業地帯の下丸子の労働者たちのサークル誌資料がピンポイント的に精査されたが、全国に及んだ様々なサークル誌やその運動についてはほとんど未調査である。また、いわゆる「へたくそ詩」を含むサークルの文学と前衛的な文学とを結ぶような視点はこれまでほとんどなかったため、文学史的な位置づけにおいても、従来の文壇文学中心の文学史を一新するような成果が期待できる。先に鳥羽の作成した『『人民文学』総目次』は文学、歴史学、社会学などの研究者から大きな反響を得、下丸子のサークル誌についても不二出版から復刻が決まったが、今回の全国規模のサークル誌の収集と目録・総目次作成、そして当事者の了解が得られる範囲での本文の公開は、人文社会系の広い分野での活用が期待できる。

4. 研究成果

図書3、8、および学会発表10を中心として、戦後期のサークル運動、記録の運動が関連しつつ、これまでにあまり顧みられなかったような文学や映画などの作品に結実していったことを明らかにできた。

図書7、雑誌論文8では、戦後の前衛文学の拠点となった雑誌『綜合文化』とそれを発行した真善美社の軌跡を跡づけ、図書2、5、6では戦後文学に大きな役割を果たした開高健、石川淳、太宰治といった作家たちの活躍について、従来の研究とは別の角度から明らかにした。また、真善美社からスタートした作家である安部公房に関して、図書4では宮澤賢治との関係について、学会発表8では物との関係において、雑誌論文3、4、7では講演や研究会、研究レビューとの関わりの中で論じた。

サークル運動については、中心的な雑誌となった『人民文学』、『文学の友』の編集責任者の証言を雑誌論文10で公開し、後継誌である『生活と文学』の内容を雑誌論文6で明らかにし、学会発表3、雑誌論文1でいわゆる「へたくそ詩」の文学的価値について考察

した他、雑誌論文9で中野重治の系譜に見られる可能性を考えた。また、研究分担者の菅本康之は学会発表6、7、9で花田清輝が担った思想的背景を検討した。

記録の運動については、図書1で杉浦明平の実践を検証した他、学会発表1で幻灯というメディアの可能性を考え、雑誌論文2で当時の運動に関わっていた池田龍雄氏の証言をとった。同時期の映画とプロレタリア文学が持っていた問題については、学会発表4で検討した。また、広い意味での「記録」とも言える原爆詩に加わってきた検閲や編集などの力について、雑誌論文5、学会発表5で検証した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計11件)

1. 鳥羽耕史、「へたくそ詩」再評価のために——『祖国の砂』と『京浜の虹』の性格について(付総目次・索引)、早稲田大学文学研究科紀要、査読有、57輯、3-19頁、2012年
2. 池田龍雄、鳥羽耕史、まず「現場」があった——ルポルタージュの時代、あいだ、査読無、188号、2~31頁、2011年
3. 鳥羽耕史、早稲田の安部公房、郷土誌あさひかわ、査読無、52巻4号、32~33頁、2011年
4. 鳥羽耕史、国際安部公房ワークショップ報告—ニューヨーク、京都から旭川へ—、郷土誌あさひかわ、査読無、52巻2号、24~26頁、2011年
5. 鳥羽耕史、二十一世紀のガリ版刷『原爆詩集』——平和運動と「海賊版」、本の手帳、査読無、10号、46~49頁、2011年
6. 鳥羽耕史、『生活と文学』総目次、徳島大学総合科学部言語文化研究、査読無、18巻、35~59頁、2010年
7. 鳥羽耕史、書評 呉美妊著『安部公房の〈戦後〉 植民地経験と初期テクストをめぐって』、昭和文学研究、査読有、61集、135~137頁、2010年
8. 鳥羽耕史、『総合文化』と花田清輝の芸術運動、社会評論、162号、8~10頁、2010年
9. 鳥羽耕史、書評 竹内栄美子著『戦後日本、中野重治という良心』、日本近代文学、査読有、82集、329~332頁、2010年
10. 道場親信、鳥羽耕史、証言と資料・文学雑誌『人民文学』の時代——元発行責任者・柴崎公三郎氏へのインタビュー、和光大学現代人間学部紀要、査読無、3号、209~237頁、2010年
11. 鳥羽耕史、合同研究会の経緯と成果、原爆文学研究、査読無、8号、210~212頁、2009年

[学会発表] (計10件)

1. 鳥羽耕史、ルポルタージュの器としての紙／布／フィルム、上映と研究報告会「《幻灯》に見る戦後社会運動——基地と原爆——」、2012年1月21日、早稲田大学早稲田キャンパス11号館603教室、東京都
2. 鳥羽耕史、Formation of the “A-Bomb Poet” and Censorship/Editing: The Political Environment that surrounded Texts of TOGE Sankichi, CIVIL SOCIETY IN MODERN AND CONTEMPORARY JAPAN - The 5th Conference: Rewriting Modern and Contemporary Intellectual History. 2011年10月21日、Cornell University, Ithaca, NY, USA
3. 鳥羽耕史、「へたくそ詩」から考える文学の公共圏、日本近代文学会2011年度秋季大会 シンポジウム「文学と公共性」、2011年10月15日、北海道大学クラーク会館
4. 鳥羽耕史、ハイブリッドとしての『蟹工船』——『戦艦ポチョムキン』から小林多喜二、山村聰へ、シンポジウム 1950年代日本映画における戦前・戦中との連続性・非連続性、2011年7月31日、国際日本文化研究センター、京都府
5. 鳥羽耕史、「原爆詩人」像の形成と検閲／編集——峠三吉のテクストが置かれてきた政治的環境、第3回日韓検閲国際会議 検閲の転移と変容—敗戦／解放期の文学とメディア—、2011年7月23日、日本大学文理学部、東京都
6. 菅本康之、花田清輝編集長下の『新日本文学』、藤女子大学日本語・日本文学会、2010年6月26日、藤女子大学、北海道
7. 菅本康之、花田清輝の『共同制作』論、ブラジリア大学第8回国際日本研究学会、2010年8月27日、ブラジリア大学、ブラジル
8. 鳥羽耕史、Pavlov, Marx, and Surrealism: Abe Kobo's Objects in His Metamorphosis Stories, Association for Asian Studies Annual Meeting, 2010年3月27日、Philadelphia, USA
9. 菅本康之、花田清輝の弁証法から〈文化政治学〉の読解へ、昭和文学会第45回研究集会、2009年12月12日、國學院大学、東京都
10. 鳥羽耕史、1950年代の「記録」—ダムと基地の問題を中心に—、「第3回国際会議 日本近現代思想史を書き直す——移動と越境の視座から」、2009年9月27日、東北大学、宮城県

[図書] (計8件)

1. 別所興一、鳥羽耕史、若杉美智子、風媒社、杉浦明平を読む “地域” から “世界” へ——行動する作家の全軌跡、2011年、全

- 274 (104～163) 頁
2. 山内祥史編、和泉書院、太宰治研究 19、2011 年、全 313 (233～241) 頁
 3. 鳥羽耕史、河出書房新社、1950 年代 「記録」の時代、全 224 頁、2010 年
 4. 天沢退二郎、金子務、鈴木貞美編、宮澤賢治イーハトヴ学事典、弘文堂、全 687 (11～11) 頁、2010 年
 5. ウィリアム・J・タイラー、鈴木貞美編、国際日本文化研究センター、石川淳と戦後日本 日文研叢書 45、査読有、全 592 (187～202) 頁、2010 年
 6. 坂本忠雄他著、河出書房新社、KAWADE 夢ムック 文藝別冊 開高健 生誕 80 年記念総特集、査読無、全 228 (68～74、218～220) 頁、2010 年
 7. 鳥羽耕史、不二出版、『総合文化』解説・総目次・索引、査読無、全 75 頁、2009 年
 8. 岩崎稔・上野千鶴子・北田暁大・小森陽一・成田龍一編、紀伊國屋書店、戦後日本スタディーズ 1 40・50 年代』、全 372 (187～202) 頁、2009 年

[その他]

ホームページ等

<http://avant-garde-socialmovement.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鳥羽 耕史 (TOBA KOJI)

早稲田大学・文学学術院・准教授

研究者番号：90346586

(2) 研究分担者

菅本 康之 (SUGAMOTO YASUYUKI)

藤女子大学・文学部・教授

研究者番号：90316232

(3) 連携研究者

()

研究者番号：